

第30回兵庫神鍋高原マラソン全国大会の開催について

昭和55年初開催から、今回30回目を迎える兵庫神鍋高原マラソン全国大会は、8月30日(日)に但馬ドームをスタート・ゴールとして開催する。

1. 参加者〔受付期間：4月1日(水)～6月15日(月)〕

(1) 申込者

今大会には、北は北海道、南は沖縄県の全国33都道府県から申込みがあった。県内からの申込者数は2,752人。うち、豊岡市は539人

5 km	979人(県内 630人・県外 349人)	
10 km	1,658人(県内 876人・県外 782人)	
ハーフマラソン	1,480人(県内 625人・県外 855人)	
ファミリージョギング	883人(県内 621人・県外 262人)	251家族
計	5,000人(県内 2,752人・県外 2,248人)	

(2) 招待選手

前回の種目別優勝者 25人(県内 18人・県外 7人)

2. 今大会の特色

【今大会の取組み〔新規〕】

(1) 今大会は参加申込定員を5,000人に設定

大会運営の安全面を考慮して定員5,000人〔昨年の参加者数は、5,763人〕とした。大会の参加申込期限を6月30日(火)としていたが、好評により、6月15日(月)に定員に達し、申込を締切ることとなった。

(5,000人到達後から6月30日までの申込者には返金対応)

(2) ゲストランナーの参加

志水 見千子さん(チームミズノアスレティック所属)

〔プロフィール〕京都府立網野高等学校卒

アトランタ五輪女子5000m4位入賞

シドニー五輪女子5000m出場

(3) 陸上クリニックを開催

日時 8月29日(土)

第1部 13:30～ 対象：小学校5・6年生

第2部 15:00～ 対象：中学生、高校生

場所 県立但馬ドーム芝生グラウンド(大会会場)

講師 ゲストランナー

志水 見千子 さん

(4) カーボン・オフセットの実施

大会会場でカーボン・オフセット募金を募る。集まった募金で、グリーン電力証書を購入し、大会開催中の但馬ドームでの電力使用に伴い排出するCO₂を相殺する。

【昨年からの取組み】

(1) 環境に配慮した大会運営

今大会も、環境に配慮した取組みを实践し、本市の取組みを紹介するとともに、来場者の環境意識の高揚を図る。

バイオマスタウン推進事業の展開

来場者向けサービスとして提供する地元産の鳥の唐揚げに、地元栽培のナタネから搾油した油を使用する。使用後の油はBDF化して公用車などで再利用する予定。会場では搾油実演も予定している。

エコ商品の積極的な利用

ア．再生PET繊維を使ったスタッフキャップを作成、再利用する。

イ．非木材繊維（バガス、ケナフ等）使用のコップ・トレー、PET樹脂カップの使用。

ウ．大会パンフレット、プログラム等の印刷物にソイインク（大豆油インク）を使用。

（２）大会を通じたコウノトリリズムの展開

昨年からはじめた「豊岡市内観光付きのマラソンバス」（新大阪から１台）を今年も運行し、大会への参加を本市の魅力を知らせていただく機会として生かす。

<市内観光付きマラソンバス>

9：00 新大阪駅発 〔昼食〕出石そば食べ放題（出石） 県立コウノトリの郷公園
山陰海岸ジオパーク玄武洞公園 16：30 大会会場

（は、昨年はなかった見学先）

6月3日（水）定員に達したため締切：申込者45人（昨年の申込者21人）

【例年の取組み】

（１）観光資源、文化資源の活用とPR

毎年、各部門の上位入賞者には、市内の観光・文化資源を活用して製作した大会オリジナルの入賞盾を贈呈している。今大会の入賞盾は、かばんの生地を利用したもので、豊岡靴協会の協力を得て171個を製作中である。

「かばんのまち豊岡」を全国に情報発信する機会とする。

参考

カーボン・オフセット

直接的な施策によって削減できないCO₂（カーボン）を、森林吸収源を守る植林やクリーンエネルギーなどの事業に投資することなどにより、排出した分を相殺（オフセット）する仕組み。

グリーン電力証書システム

自然エネルギーにより発電された電気環境付加価値を、証書発行事業者が第三者機関（グリーンエネルギー認証センター）の認証を得て発行し、「グリーン電力証書」という形で取引する仕組み。

「グリーン電力証書」を購入する企業・自治体などが支払う費用は、証書発行事業者を通じて発電設備の維持・拡大などに利用される。発電設備を持たなくても、証書発行を受けたグリーン電力相当量の自然エネルギーの普及に貢献できるため、地球温暖化防止につながる。